

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2301 EDEL1301						
2. 授業担当教員	西田 太郎								
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係	「国語科指導法」の基盤をなす科目である。								
7. 講義概要	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることは、私たちが豊かな言語活動を展開するために必要不可欠である。加えて子どもたちに国語への関心を高め、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者が母語 (日本語) に愛着心を抱き、日本語についての確かな知識を身に付けることが大切である。指導者が言語感覚・能力を培い、思考力・判断力・表現力を育成することが、感性や情緒をはぐくみ、人間形成や社会参加につながることを理解した上で、子どもたちの発達段階に応じた国語教育のあり方について学習する。								
8. 学習目標	<p>国語に対する関心を深め、思考力や想像力、言語感覚を磨き、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者自らが、日本語についての正しい知識を身に付ける必要がある。そのために、次のことを学習目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本語の現状と、日本語を取り巻く課題、問題点等を理解することができる。</li> <li>2 小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「日本語」についての基礎的知識を身に付けることができる。</li> <li>3 「国語科」の教材としての「日本語」を考えることができるようになる。</li> <li>4 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向けて、これからの国語力や国語教育について考えることができるようになる。</li> </ol>								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・レポート課題</p> <p>「周囲で見聞きする日本語の表現・理解に関する疑問点や問題点を挙げ、その原因と解決方法を自分どのように考えるか」について、授業での学習内容を踏まえ、1200字程度でまとめる。このレポートの内容を踏まえた期末試験を行う。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 指定しない。※必要に応じて、プリント資料を配付する。</p> <p>【参考書】 岡本夏木『ことばと発達』岩波新書、1985 金田一春彦『日本語 新版 (下)』岩波新書、1988</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本語 (国語) の現状と、日本語を取り巻く課題、問題点等を理解することができたか。</li> <li>2 小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「日本語」についての基礎的知識を身につけることができたか。</li> <li>3 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向けてこれからの国語力や国語教育について考えることができたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加態度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>宿題、レポート、小テスト等</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の条件である。</p>			授業への積極的参加態度	40%	宿題、レポート、小テスト等	40%	期末試験	20%
授業への積極的参加態度	40%								
宿題、レポート、小テスト等	40%								
期末試験	20%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>国語科教師として子どもたちを指導するからには、日本語を話し (聞き)、読み、書くことにおいて、子どもたちの見本にならなければなりません。この科目では、国語科教師として必要な日本語についての知識を深めるとともに、子どもたちに何を指導すればよいのかを考えます。</p> <p>講義内では、学生による発表とそれに基づく討議の機会を多く取り入れ、個々の理解を深めていきます。そのため、毎回の事前学習が積極的な授業参加の前提になります。主体的に学び、国語科教師にふさわしい日本語の力を身に付けていきましょう。</p>								
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	シラバスの確認、授業展開及び学習への取り組み方の説明、レポート課題と期末試験の確認	事前学習	シラバスを読み、学習目標と授業の内容・流れを理解しておく。						
		事後学習	授業の進め方や参加の仕方を確認しておく。						
第 2 回	国語科では何を指導するのかについて問い直す。 (指導事項、言語活動例、単元を貫く言語活動などについて理解する)	事前学習	配付資料を読み、事前学習プリントを仕上げる。						
		事後学習	国語科の指導内容について、自分の言葉で説明できるように整理する。						
第 3 回	「話すこと・聞くこと」の指導について考える。 (高学年の指導を事例にして)	事前学習	配付資料を読み、事前学習プリントを仕上げる。						
		事後学習	「話すこと・聞くこと」の指導事項から、どのような言語活動が考えられるか自分なりに整理する。						
第 4 回	「話すこと・聞くこと」の言語活動を体験する。 (自分の好きな絵本を推薦する活動)	事前学習	発表用の事前課題を仕上げておく。						
		事後学習	実際に体験して感じた難しさに対し、どのような支援が考えられるか整理する。						
第 5 回	「書くこと」の指導について考える。 (中学年の指導を事例にして)	事前学習	配付資料を読み、事前学習プリントを仕上げる。						

		事後学習	「書くこと」の指導事項から、どのような言語活動が考えられるか自分なりに整理する。
第6回	「書くこと」の言語活動を体験する。 (調べたことの報告文を書く活動)	事前学習	発表用の事前課題を仕上げておく。
		事後学習	実際に体験して感じた難しさに対し、どのような支援が考えられるか整理する。
第7回	「読むこと」の指導について考える。 (高学年の指導を事例にして)	事前学習	配付資料を読み、事前学習プリントを仕上げる。
		事後学習	「読むこと」の指導事項から、どのような言語活動が考えられるか自分なりに整理する。
第8回	「読むこと」の言語活動を体験する。 (文章を読み比べて自分の考えを明確にする活動)	事前学習	発表用の事前課題を仕上げておく。
		事後学習	実際に体験して感じた難しさに対し、どのような支援が考えられるか整理する。
第9回	「読むこと」を指導するための教材について考える。 (低学年の「文学的文章の解釈に関する指導事項」に基づいて)	事前学習	教材としてふさわしい絵本等の文章を探して準備する。
		事後学習	教科書の文章は指導事項を指導するための一つの事例であることを確認する。
第10回	ことばの発達について理解する。 (一次的事ことばと二次的事ことば)	事前学習	ことばの発達についての配付資料を読み、事前学習プリントを仕上げる。
		事後学習	一次的事ことばと二次的事ことばの違いについて整理する。
第11回	現代の日本語の表現や理解について考える。 (身の回りの言葉遣いを振り返る)	事前学習	日本語の特徴に関する配付資料を読み、事前学習プリントを仕上げる。
		事後学習	国語科教師としてはふさわしくない言語表現について整理しておく。
第12回	課題レポートを発表し、それに基づき討議する。	事前学習	発表用の課題レポートを仕上げておく。
		事後学習	レポートの検討された箇所を確認し、さらに考察を深め、修正する。
第13回	「我が国の言語文化に関する事項」について考える。 (ことわざ、故事成語、古文等の理解を深める)	事前学習	発表用の事前課題を仕上げておく。
		事後学習	ことわざ、故事成語、古文等の正しい知識を整理しておく。
第14回	「言葉の特徴や使い方に関する事項」について考える。 (語彙、敬語等の理解を深める)	事前学習	発表用の事前課題を仕上げておく。
		事後学習	語彙、敬語等の正しい知識を整理しておく。
第15回	①「書写」について考える。 ②本授業で身に付けたことについて振り返る(総括)。	事前学習	本授業での自身の学びについて、考えをまとめておく。
		事後学習	国語科教師として身に付けておくべき知識や技能を整理しておく。
期末試験			